

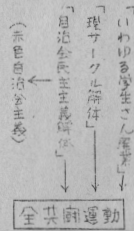
早大番外地を全学化せよ

早大反戦連合
教育学部叛逆者連合

「偽りのマルクスと創造にかこまれて
人がベッドにはいる時
英雄であるケバ子に武器を手にとり
現サークルを、現大学を
こえていくのだ!!」

あの西・一學部闘争はワロケ其因位を前シのものとする番外地現象として解かれた。しかしながら物々付決して番外地を「番外地」とするだけではとまりないであろう。我々のこの一年間にわたって語られてきている最大・最大闘争を頂点とする全国學部闘争が、このワロケが蘇りであるが故に終ることはないであろうといふ至道信福報に違いない。我々の闘いでこの闘がらんとてまじらひあつた。それは決して最大・最大「番外地」としてこのことを記述するが故にある闘いであり、それは決して決して全學部闘争に閉鎖するものではない。いざいざあり、西・一學部闘争はあくまでも蘇りの出発点であり、各更派諸君がいうような「管理運営機構を全学共同ヒトツツ交渉してもらひいざいざい」といふことは決してありえない。それは当然にして、こゝから一歩踏み出せば我々を庇護する以外の何もできない。我々は校面のよい学際をもらひいざいざいなる闘争をやめることを欲しない。それは進んで後進の聖廟内移動で解決される向題でもない。それは現在のサークルのあり方、大学の存在のものに向いかけられた聖廟内移動もあるだろう。

「続・早大闘争へのアアローチ」



「全ての闘争破壊を許すな!!」

全ての闘争破壊、我々にどこまで容れられ、大学とは、サークルとは一体何であるのかという客観的な問いを、今まさに突きあげようとしている。学際闘争とヒトツツ交渉により、我々の闘いを広げようとしている。自分自身を捨てて闘う、我々の闘いを勝ち取って闘うことばかりではない。早大反戦連合、教育反戦者連合は闘争のための大衆機関として、全ての闘争の参加と発展を願うことを宣言する。

「拒絶が静かな思想の着地であった。……が、しかしそれは暗やみであった。……いびむ、暗やみに光を見出す自己を発見したとき彼はあらしの前に立つ。」

遠藤健 教育学部内 戸野基生
文芸部、下